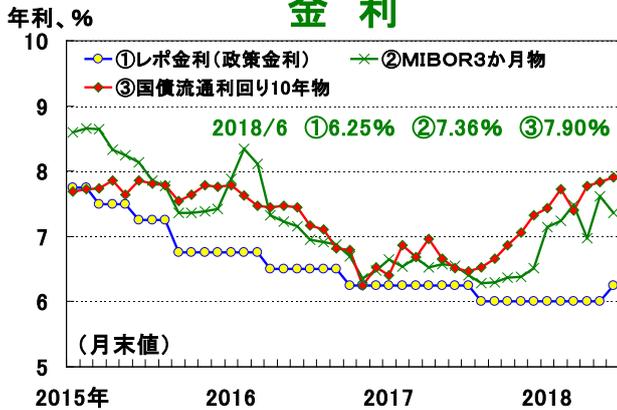


# グラフで見るインド経済 2018年7月号(No. 103)

インド景気は回復している。OECD景気先行指数は、2017年11月に長期平均を超え、その後も上昇を続けている。4月の鉱工業生産指数は前年比+4.9%と前月の伸び(同+4.6%)を若干上回った。また、6月の製造業PMI(中立水準は50)は53.1と、「生産」や「新規受注」の堅調な増加などにより、6か月ぶりの高水準となった。製造業の景況感も足元で顕著に改善している。外需をみると、5月の輸出は前年比+20.2%と6か月ぶりの高い伸びとなった。内需についても、5月の新車販売台数が前年比+19.7%と大幅増となった。

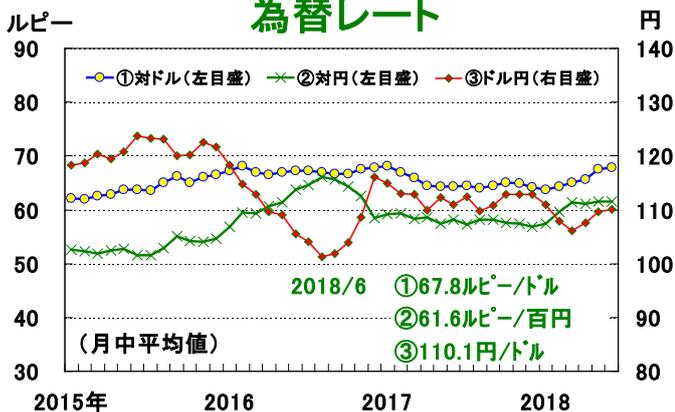
## 金利



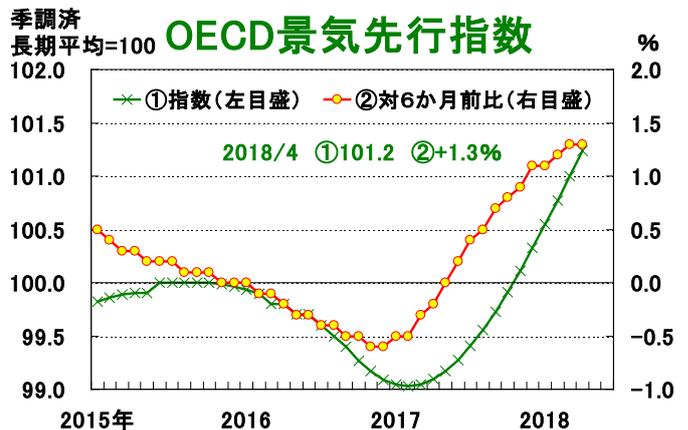
## 実質GDP成長率



## 為替レート



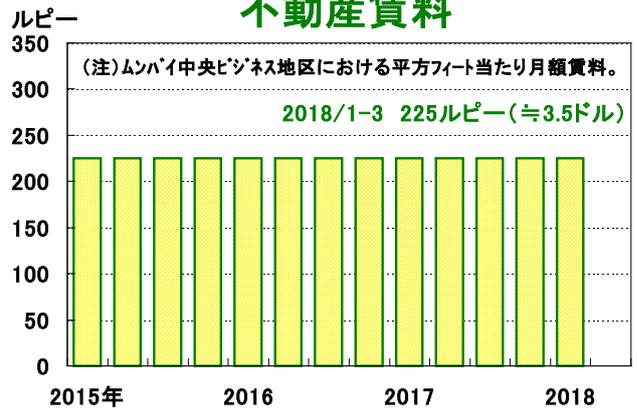
## OECD景気先行指数



## ムンバイ指数(株価)



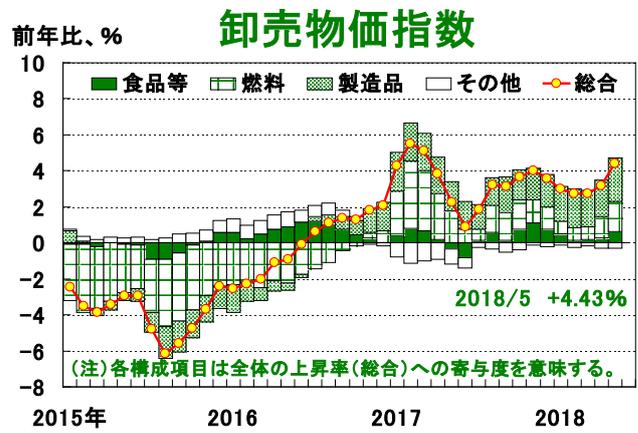
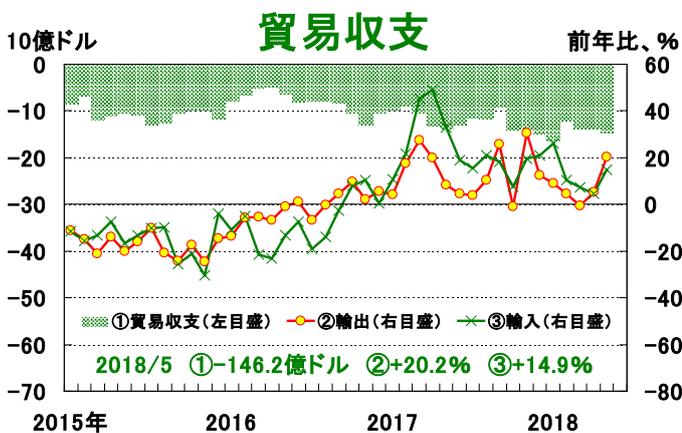
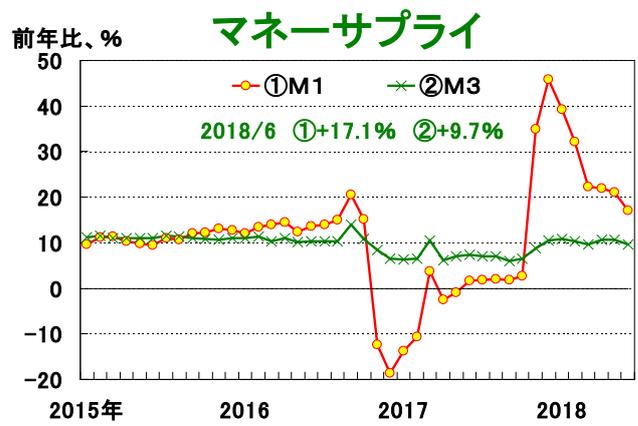
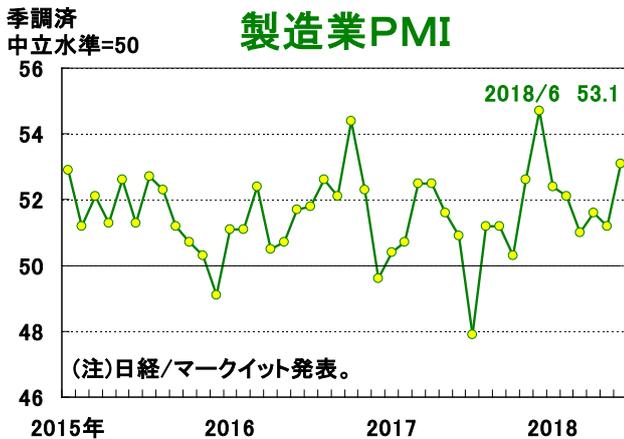
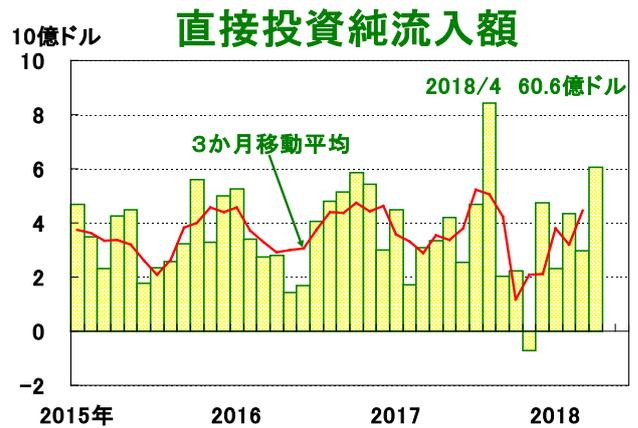
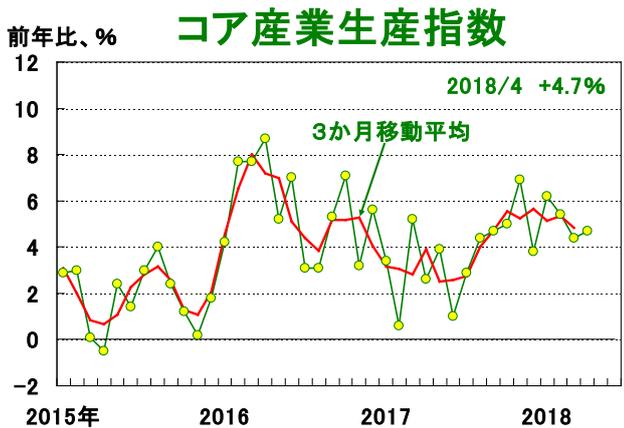
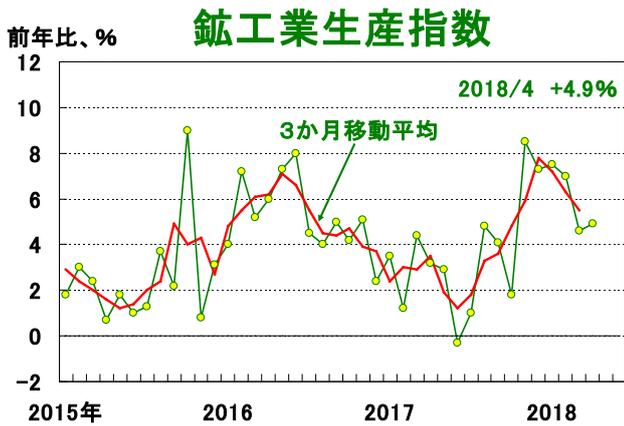
## 不動産賃料



**【今月のトピック:約4年ぶりに中銀が利上げ】** 6月6日に、インド準備銀行(中央銀行)はレポ金利を6.00%から6.25%に引き上げた。利上げは2014年1月以来となる。利上げの背景には、個人消費を中心とした内需拡大や原油価格の高騰により、物価上昇圧力が強まっていることが挙げられる。5月の消費者物価上昇率は4.87%と、中銀の金融政策委員会の中長期的なインフレ目標である4%を上回った。金融市場では、インド経済の過熱感が強まるなかで、インド中銀が金融政策のスタンスを現状の中立から引き締め方向へと修正するとの見方が強まっている。

(出所) インド準備銀行、インド統計・計画実施省、OECD、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。



(出所) インド統計・計画実施省、インド商工省・同経済諮問部・同通商情報統計局、インド自動車工業会、インド準備銀行、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。